

第2章

doi: 10.18999/bulsea.66.37

附属農場講演会・見学会

松 本 拓 也

(1) 仮説

本来であれば、名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド（以下、東郷フィールド）が地域貢献事業の一環として開催している講演会に参加する予定であった。しかし、今回は新型コロナウイルス感染防止の観点からzoom※を使用し、本校の生徒は自宅から講演会に参加する形となった。本講演会・見学会は、新たに農学分野への興味を持つ生徒が増えたり、農学分野への進学を目指す生徒にとっては、見学や質問を通して自らのモチベーションを高める機会となったりすることが考えられる。例年の見学会では農場や飼育されている動物などを目の前にして観察することができるが、今回は雰囲気や匂いなど、現地ではしか得られないものが得られない反面、双方向のやりとりがしやすいオンラインのメリットを生かすことで、例年にも勝るとも劣らない見学会になると考えられる。

※zoom Zoom Video Communications, Inc.が提供するweb会議システム

(2) 実践

日 時：10月31日（土）13：30～16：30
講 師：森田康広先生（名古屋大学大学院生命農学研究科）

参加生徒：16名（zoomによる参加）

講演会概要：テーマは「食と畜産を通してみる世界の姿」。世界の食糧状況が今現在どのような状況なのか、国際連合の機関であるWFP（世界食糧計画）や農林水産省等のデータを用いての講演だった。令和元年度の日本における食糧自給率は38%であり、私たちは多くの食糧を輸入に頼っていること、世界の穀物の流通は「穀物メジャー」と呼ばれる大手4社が流通の7割を握っていること、日本の年間食品ロス約612万トン、WFPが1年間で世界に支援する食糧約420万トン、日本を大きく上回っていること等、スライドを交えて大変わかりやすい講演だった。未来の畜産については、畜産という視

点からSDGsの達成に貢献できるかが現在の世界の状況だと説明があった。

見学会概要：大蔵聡先生（フィールド科学教育研究センター副センター長 名古屋大学大学院生命農学研究科）はじめ、東郷フィールドの先生方や大学院生がzoomを使用し、東郷フィールドの施設や、飼育されている動物などを紹介した。

(3) 評価

実際に東郷フィールドに足を運び、自らが体験することが、東郷フィールド講演会・見学会の良さと考えていたため、当初はzoomによる実施に不安を感じていた。しかし、森田先生の講演会では、当初の予定時間を超過するほどの質問が生徒からあがり、普段よりも集中して講演会に参加できたと思われる。施設見学では、学生がzoomを通して東郷フィールド内を隈無く案内してくれたおかげで、臨場感が伝わってきた。施設と施設の移動時間を利用しての質問会も、講演会同様活発に行われた。生徒の感想にも、「農学への興味関心が高まった。」「来年は是非東郷フィールドに行きたい。」といった声が多く寄せられた。

（文責 松本拓也）